



後鳥羽院遷幸八百年記念 「島の文化会議」



第3回 「モノづくりから見る日本
～隠岐と後鳥羽院から考える～」

日時

令和5年3月12日(日)

9:00～11:30(予定) ※開場8:40

会場

隠岐開発総合センター 島民ホール

■基調講演 「後鳥羽院と菊御作」
講師 末兼 俊彦氏

■パネルディスカッション「私たちと歴史はどのようにつながるのか？」
～隠岐と後鳥羽院から考える～」

- パネラー ●磯田 道史氏(国際日本文化研究センター教授)
●末兼 俊彦氏(京都国立博物館工芸室主任研究員)
●月山 貞伸氏(日本刀刀匠)※オンライン参加
●勇木 史記氏(陶芸家、海士町教育委員)



末兼 俊彦(すえかねとしひこ)氏
美術史学者(金工史)
1978年生まれ。京都大学大学院 人間・環境学研究科博士後期課程単位取得後退学。2010年九博に金工分野担当のアソシエイトフェローとして着任。2012年(平成24年)4月に京博研究員となり、2016年(平成28年)4月より東博学芸研究部 主任研究員となる。2018年(平成30年)4月には再び京博学芸部工芸室主任研究員として着任。



磯田 道史(いそだみちふみ)氏
1970年岡山市生まれ。慶應義塾大学大学院卒。博士(史学)。現在、国際日本文化研究センター教授。著書に『武士の家計簿』(新潮新書、新潮ドキュメント賞受賞、2010年映画化)、『近世大名家臣団の社会構造』(文春学芸ライブラリー)、『殿様の通信簿』(新潮文庫)、『江戸の備忘録』(文春文庫)、『龍馬史』(文春文庫)、『日本人の叡智』(新潮新書)、『歴史の愉しみ方』(中公新書)、『歴史の読み解き方』(朝日新書)、『天災から日本史を読みなおす』(中公新書)、『日本史の内幕』(中公新書)など多数。『無私の日本人』(文春文庫)の編「穀田屋十三郎」が2016年「殿、利息でござる!」として映画化された。近著に『歴史とは靴である』(講談社)、『徳川家康弱者の戦略』(文春新書)、『日本史を暴く』(中公新書)。

※入場無料

※事前申込不要。但し、席(90席)に限りがありますので、お早めにお越しください。

※都合により、開催の中止、出演者の変更等もありえます。

※今回、オンライン配信はありません。会場内での録音・録画・写真撮影等をご遠慮いただきます。

主催・問い合わせ

後鳥羽院顕彰事業実行委員会(08514-2-0115 海士町役場内)

